

[附属中学校]

①「知の冒険旅行」



第3学年では、和歌山大学に行って授業を受ける「知の冒険旅行」を実施した。

国語・数学・理科（2講座）・英語・体育（2講座）・家庭の6教科8講座の授業を受けた。大学で授業を受けることができるというのは、附属学校ならではのことで、中学生向きに工夫された授業が行われた。

写真は本校柏原卓校長（教育学部国語学教授）の授業で、「言葉を科学しよう」というテーマで、言葉の実験、言葉遊びなど、文章はなぜわかるのかを科学し、言葉を分析して言葉の豊かさを実感することをねらったものである。

②和歌山大学の学生によるボランティア



[バスケットボール部を指導する大学生]

附属中学校では、バスケットボール部、陸上部で和歌山大学学生が部活動のボランティアとして来ている。自分の専門性を生かして年齢の近い中学生を熱心に指導してくれている。



[陸上部を指導する大学生]



[柔道の授業の指導を補助する大学生]

体育の授業において、柔道や水泳の補助として和歌山大学学生が来ている。技術的な指導も含めて個々の生徒に対応しやすくなる利点がある。大学生にとっても自分の得意な実技を発揮できる場であり、教員をめざす学生にとってもメリットがある。

(3) 本校卒業生によるボランティア活動

[附属中学校]

①音楽部の指導者として



音楽部の指導者として、本校卒業生に土曜や日曜に指導に来ていただいている。コンクールで金賞や県教育委員会賞に入るなど活発な活動を行っている。

入学式や文化祭等でも活躍し、たくさんの生徒が入部している。

②総合的な学習の時間の講師として

第1学年のオリエンテーション・キャンプ



第1学年では入学時の学級や学年での仲間づくりにオリエンテーション・キャンプを実施している。その中で、本校卒業生にボランティアで生徒にこれから中学校生活を送るうえでためになる話をしていただいた。県立医科大学の学長や紀三井寺の副住職は本校の卒業生であり、さまざまな機会に学校を支援していただけるのはありがたいことである。

県立医科大学の学長には、「生き方を考える講演会」として全校生徒にお話していただいたこともあった。

(4) 保護者によるボランティア活動

○ 小・中学校図書館の整備充実と学校ボランティア組織の充実

附属小学校では、平成19年度図書管理システム「りいぶる」を導入し、所蔵図書のデータ登録を教員と保護者で組織する学校ボランティア組織^{ララルウ}La-La-Luとで行った。したがって、図書の貸出・返却操作や図書利用者のデータ登録が簡単にできるようになった。

La-La-Luは数年間に渡って、所蔵図書の整理、新刊図書の登録、図書館の飾り付け、低学年の児童への読み聞かせなどをボランティアとして行ってきた。ブックカバーの付け方や所蔵図書の分類の講習には、大学の図書館の職員や県立図書館の方に来ていただいたし、読み聞かせの学習会には、読み聞かせの専門家に来ていただいた。

平成20年度には、図書管理システムを維持・運営し、学校図書館をより充実させていくため、大学の費用で週2日非常勤講師を配置し、図書担当教員・非常勤講師・La-La-Lu

の3者が分担協力して、学校図書館の運営・整備に当たるようにした。

附属中学校でも20年に「りいぶる」を導入し所蔵図書のデータ登録を行った。週2回図書の整備に来ていただける方もあり、学校図書館の整備が進んだ。また、保護者の図書ボランティアにも来ていただき、整備された中で使用できるようになった。

小中に共通したコンピューターソフトを導入したことで、児童生徒が連絡進学してきても違和感なく使用でき、9年間にわたる読書量の変化や読書傾向の変容を把握することも可能になった。

本年度 La-La-Lu は、これまでの読み聞かせのほかに、12月に人形劇『クリスマスのまほう』を制作し、1年から3年の全学級で実施した。ストーリーの創作から、人形や舞台作りなど大変だったが、子ども達はとても集中して喜んで観ていた。1月には講談社狂言絵本「しどうほうがあく」というお話を、紙芝居にして2年生に見せた。

また、ALTとのコラボレーションによる英文絵本の読み聞かせも行った。La-La-Lu が日本語で読み聞かせた後、ALTが同じ物語の英文絵本を読み聞かせた。

小中連携では、中学生が小学生に心に残った本、役に立った本の紹介等ブックトークを行った。中学生にとっては相手意識をもって声に出して読む実践的な言語活動の場となり、小学生にとっても自分自身の目標となったり、新たな分野の開拓となり読書の幅を広げるよい機会となった。

このように、外部教育力と小中連携を効果的に活用することで、学校図書館の幅広い活性化を図ってきている。

[附属小学校]

①図書ボランティア 「La-La-Lu」

毎月、各学年の担任から要望のあったクラスへ「附属小学校図書ボランティア La-La-Lu」が子どもたちに読み聞かせを行っている。

子どもたちが様々な本にふれることができるように、季節や行事に関する読み聞かせや手作りの人形劇やクイズ問題形式、大型絵本の読み聞かせや紙芝居など様々な工夫をしてくれている。

その他、新しく購入した本のカバー付けや傷んだ本の修繕などの学校図書館の環境整備にも協力してくれている。

今年は日本の古典芸能、茂山狂言会による「柿山伏」と「附子」を鑑賞するにあたり、図書ボランティアの方をお願いして事前に絵本で「柿山伏」と「附子」を読んでもらうことで小学1年生でも狂言の醍醐味を味わうことができた。その後も、狂言に関する絵本をいくつか読んでもらい子どもたちは知識と教養を身につけることができた。狂言の中の作品で「しどうほうがあく」については、図書ボランティア La-La-Lu の方が子どもたちのために大きな紙芝居を制作してくれた。



②生活科ボランティア 「『和み』隊」

附属小学校では、生活科において独自のカリキュラムである「和みカリキュラム」を作成している。カリキュラムでは、日本の伝統文化について体験的に学ぶことをねらいとしている。内容は、日本茶の入れ方、野草を生ける、茶室での作法、和菓子作り体験などである。その指導においては、茶道・華道などの知識技能が必要となってくる。そこで、附属小学校保護者の方を中心に、茶道や華道の知識技能のある方にボランティアをお願いし、「和み隊」として、昨年度に引き続き、子どもたちの指導に当たってもらった。その中で、日本の文化であるおもてなしや作法について学ぶことができた。



③サーフィン教室

附属小学校プールにて、サーフボードに実際に乗る体験をした。保護者の方が講師になって下さり、サーフィンを通して、自然や地球環境について考える体験となった

④清掃奉仕作業

夏は1年生、冬は6年生を中心に保護者の方々、子ども、教職員が一丸となって校舎内外の清掃を行った。

[附属中学校]

①図書ボランティア



学校図書館の書籍の整理等を保護者・元保護者の方に手伝っていただいている。2年前まではほとんどその機会はなかったが、本事業に取り組み始めてから学校図書館の図書の整理が飛躍的に進展した。

(5) 市内のさまざまな機関からの支援

[附属中学校]

①授業にT. T. で



家庭科の授業に T.T.で入っていただいたものである。左は和歌山市市民総務課消費生活相談員の方で、消費者として契約における権利と義務を考えさせることをねらった授業である。

本校は市役所や県庁にも近い場所に位置するので、行政からの支援も受けやすい場所にある。

次は県漁協女性部連合会から来ていただいた「おさかなママさん クッキングセミナー」である。魚をさばいた経験などあまりもたない中学生に漁連の婦人部から 10 人ほどボランティアで来ていただいた。1 学級約 40 人の生徒であるので、家庭科教員一人だけでなくたくさんの方々から包丁の使い方を手を取って教えていただけるのは大変ありがたいことである。





②部活動へのボランティア

卓球部の生徒への指導に、地域の卓球クラブからボランティアで週に1回来ていただいている。教員の多忙化がいわれる中、生徒の多様な個性を伸ばせる部活動にボランティアで来ていただけて学校としては大変助かっている。

(6) 児童・生徒が地域へ出かけた活動

[附属小学校]

①地域の町おこしに参加



附属の子どもたちが、和歌山大学生が運営するぶらくり丁「Caffe With」で地域の方々、大学教員、大学生と協力して、町おこしのためのイベントに参加した。

6A カフェという取り組みを行い、そのことでさまざまな人と出会い、貴重な体験をすることができた。

[附属中学校]

地域から支援をいただくだけでなく、生徒が学校周辺の地域に出かける活動を行っている。

①学校周辺の清掃



学校周辺の清掃をしている様子である。ゴミ拾いや草むしり等学校周辺をきれいにし、地域の中にある学校として活動していきたいと考えている。今後、和歌山城や駅周辺などの清掃活動ができないか検討しているところである。

②地域の祭りへ参加

和歌山市の代表的な祭りに学年をあげて参加している。左の写真は第1学年と第3学

年の希望者約 100 名が、「第 41 回紀州おどり（ぶんだら節）」に参加したものである。右の写真は「第 6 回よさこい祭り」に第 2 学年約 150 名が参加したものである。本校は和歌山市の中心部に位置し、条件的にも参加しやすい場所にある。

地元和歌山の祭りに参加することを通して、地域に親しみ、郷土を愛する生徒に育ててもらいたいと考えている。



③地域の慰霊祭に生徒会が出席



和歌山大空襲に係る地域の慰霊祭に生徒会が出席したものである。地域の方に来ていただいて平和学習の一環として「和歌山大空襲」についてのお話を聞き、その後生徒会が昼休みの時間を利用して慰霊祭に出席した。

(7) その他様々なゲストティーチャーによるボランティア活動

[附属小学校]

附属小学校では、各クラスが独自に特色ある活動に取り組んでいる。その中で、必要に応じて専門的な知識や技能のある方をゲストティーチャーとしてお招きし、体験活動をしたり講話を聞かせてもらったりしている。そうすることで子どもたちの学びの質をより高いものにすることができている。また、新しい知識を身につけたり、体験をしたりするだけでなく、その道の専門家の「人そのもの」との出会いも、子どもたちにとって貴重なものとなっている。

①カヌー教室



熊野川の自然にあこがれて東京から I ターンで熊野川町に移り住んだ田口隆二さんを講師としてお願いした。川でカヌーに実際に乗る体験もさせてもらった。子どもたちは併せて、人と自然が共生するためにはどのようにしたらいいのか教わった。この日、子どもたちは熊野川町まででかけて行き、心と体で自然を満喫することができた。

②稲刈り体験



食を通して環境について学ぶために、小学校の敷地内に小さな田んぼを作り、紀州大地の会代表の園井信雄さんに 1 年間サポートしていただいた。おかげで、子どもたちは、田んぼにはさまざまな生きものが暮らしていることを理解し、お米作りの過程や田んぼの生態系に与える影響についてくわしく学ぶことができた。

③ビオトープ孟子見学



小学校の敷地にまがたま池という人工池がある。総合的な学習の時間にその池の環境を改善するためにどのようにしたらいいのかを子どもたちが考える学習を行った。その学習の一環として、ビオトープ孟子にビオトープ見学に行き、ビオトープ孟子を運営する有本智さんにビオトープについての疑問を直接教わることができた。

④環境問題学習



自然と共に暮らすために、自分たちでできる活動を考える一環として、プール清掃で多くの洗剤を使わない方法について考えていった。生物学的製剤である EM 菌を使ってプールの清掃を行うことができることを紀州大地の会の堀禎宏さんに教えてもらい実際に行った。

5 成果報告会

平成 21 年 11 月 23 日（月・祝）に和歌山県教育センター学びの丘において、県教育委員会と共催で「平成 21 年度『きのくに学びフェスタ』（紀南の部）きのくに“共育”実践交流会」を開催し、その中で附属小・中学校の取り組みを発表した。

情報交換会も含め、全体の参加者は 212 名で情報交換会では、各地域からのさまざまな取り組みが寄せられ、今後の取り組みの参考となった。



平成21年度きのくに“共育”実践交流会 開催要項

- 趣 旨： 学校・家庭・地域が連携し、共に育ち、育て合う「共育コミュニティ」の取組について、理解を広げるとともに、参加者一人ひとりが地域を支える一員としての自覚を高める。
- 主 催： 和歌山県教育委員会・和歌山県
- 共 催： 国立大学法人和歌山大学教育学部附属小学校
国立大学法人和歌山大学教育学部附属中学校
- 日 時： 平成 21 年 11 月 23 日（月・祝）
- 会 場： 和歌山県教育センター学びの丘（Big-U 内）
和歌山県田辺市新庄町 3353-9 TEL：0739-26-3514

6 参加対象：

市町村行政職員，学校教職員，社会教育委員，社会教育団体（PTA，公民館等）関係者，きのくに共育コミュニティ推進事業関係者（地域共育コーディネーター，共育コミュニティ推進本部員，学校支援ボランティア等），放課後子どもプラン関係者（コーディネーター，安全管理員，学習アドバイザー，クラブ指導員等），家庭教育インストラクター 等

7 内 容：・講 演 「地域と学校で支える子どもの豊かな育ち」

講師 NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重 幸恵

(プロフィール)

PTA会長時代から学校を支援する活動を積極的に行い，平成 14 年「学校教育支援における地域活性化」を目的とする同法人を設立。平成 19 年度，「杉並区学校教育コーディネーター」としての杉並区立小・中学校授業コーディネートに加え，「東京都教育庁教育支援コーディネーター」として，東京都立高等学校の奉仕体験・キャリア教育などのコーディネートも行っている。平成 21 年には文部科学省第 5 期中央教育審議会生涯学習分委会委員に任命されている。

- ・体験教室（作って遊ぼう（レクリエーション），カプラで遊ぼう等）
- ・情報交換会（共育コミュニティ関係者，地域ふれあいルーム（放課後子ども教室）いきいき交流教室関係者放課後子どもプラン関係者）
- ・NPOとの協働相談コーナー
- ・ポスター展示

8 日 程

9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	16:00
受付	開 会	講 演	休 憩	体験教室	
		体験教室 ・カプラで遊ぼう ・読み聞かせ		<ul style="list-style-type: none"> ・作って遊ぼう（レクリエーション） ・カプラで遊ぼう ・読み聞かせ(13:40～14:00) ・身体をつかって遊ぼう (13:40～14:40) 	
				NPOとの協働相談コーナー	
					情報交換会 (14:40～16:00)
ポスター展示					

9 問い合わせ先参加申込み

(県)教育庁生涯学習局生涯学習課 地域教育班

(県)福祉保健政策局子ども未来課 幼保・少子化対策推進室

6 おわりに～本年度の取り組みを終えて 成果と課題～

昨年度、本事業の指定を受けた時点では、附属小・中学校の広い敷地を整備する「環境支援ボランティア」と附属学校としてより質の高い「文化支援ボランティア」の両面で、より充実したものができればと考えた。こうして始まったのが、学校周辺の方による菜園での花や野菜作りであり、文化的コーディネーターによる人材バンク作りであった。もちろん、それまでいろんなことで学校を支えてくださっていた方を、整理し見直すことでより充実させようとも考えた。

平成 20 年 10 月からの取り組みの中で、附属学校としての「地域」をどうとらえ、その豊かな人材をどう活用するかについて考え、学校支援の輪を少しずつ広げてきた。この間の成果と課題としては、次のようなことが考えられる。

〔成果〕

- 学校周辺の方には、地域コーディネーターが中心に環境支援ボランティアを募集し、菜園での花や野菜作りを通して、校内の整備を行ってもらった。これは、地域の方のコミュニケーションの場にもなっている。また、学校図書館の見学や小学校育友会主催の「おくやま祭り」、スポレク・音楽祭などの学校行事等で、学校に来ていただく機会を多くすることで、学校周辺の方々の学校についての理解が深まった。
- 附属中学校で、小中共通のコンピューターソフトを導入し所蔵図書のデータ化するときも、図書ボランティアの働きが大きかった。附属小学校の「La-La-Lu」の読み聞かせでは、人形劇「クリスマスのまほう」や紙芝居「しどうほうがく」、ALTとのコラボレーションによる英文絵本の読み聞かせなど、これまで以上に様々な工夫がされていた。また、中学生による小学生へのブックトークや読み聞かせなど、子どもレベルでの小中連携も行った。
- これまで学校に来ていただいたゲストティーチャーを整理し、人材バンクを作成した。また、伝統文化や歴史的な面に強いコーディネーターのおかげで、「能狂言」「和歌浦の案内」「和歌山の歴史」などのゲストティーチャーも新たに付け加えることができた。
日本の伝統芸能である能や狂言の体験を子ども達にさせることができたのも、このコーディネーターが仲立ちしてくれたからである。
- 附属学校の特色を生かして、大学を利用した活動も多く行われている。小学生や中学生による大学訪問、大学生によるクラブ活動のボランティア、留学生による外国語活動のゲストティーチャー、大学教員による 6 年生への陶芸教室指導、大学教員・大学生の町おこしプロジェクトへの協力など、いろんなことでの連携が増えた。
研究会や校内研究授業での指導助言はもちろんのこと、大学の先生との共同研究の数も増えて、私たち教員としての連携もこれまで以上に密になった。
- 附属学校の卒業生には、和歌山県知事、和歌山市長をはじめ、素晴らしい人材が多い。附属中学校では、それらの先輩方を「生き方を考える講演会」の講師としてお招きし、全校生徒にお話していただいている。附属小学校でも、同窓会の会長さんに「戦争体験」や「昔の附属小学校の様子」をお話しいただいた。

〔課題〕

- ・ 附属小学校，附属中学校ともに，それぞれの実情に応じて多くの人材をボランティアとして，教育活動にご協力いただいていた。これは，これからもさらに充実したものにしていきたい。
- ・ 附属校であっても，これまで意外と大学との連携が弱いという感もあった。大学を活用した活動をより充実したものにしていきたい。
- ・ 児童生徒が「地域」の方々とふれあう機会を増やしていきたい。

平成 22 年度は，これらの成果と課題をふまえて，事業の趣旨にそって一層前進していきたいと考えている。